



たばさみ
手扶の龍

光といのち

第140号

—春彼岸—

2023年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌（井上孝昌）

勝善寺
後藤の龍より
聞法会
もんばうかい

題字下は、南房総市平群にお住まいの小澤明義氏が詠んだ句です。それを私に伝えてくれたご門徒の川名喜昭氏は「季語がないから俳句と言えないかもしれないが」と仰いました。この句は私の思いを代弁してくれていると、嬉しくなりました。

「後藤の龍」は、本堂向拝にある彫刻（写真）です。房総の名工後藤義光最後の作品で保存状態も良く、彫刻として素晴らしいのだそうです。だからこれを目当てに寺を訪れる人は、けっこういらつしやるのです。しかし聞法会はというと・・・

ところで皆さん、写真に映った自分の顔にオヤツと思ったことありませんか。

チコちゃんが「それが本当の顔だから！」と、教えてくれました。チコちゃんは、ご存じの通りNHKの「チコちゃんに叱られる」の五歳の女の子です。

いつも鏡で見ている自分の顔と写真に写った顔では、左右が逆になるから写真の顔に違和感を持つのだそうです。

あるいは、これは私のことで

すが、理容師が散髪し終わると「これでよろしいですか」と頭の後ろを鏡で見せてくれるのです。私は毎回ここでギョツとします。後頭部の髪の毛の無いところを見てしまうからです。信じられないかもしれませんが、ふだんは気にも留めていないんですよ。自分では見えませんからね。

聞法会の法話は、仏さまの説法。本当の自分を知らされ、オヤツと思つたりギョツとしたり、当たり前が有り難いことだったと驚き、欠点を指摘されると腹が立ちますが同じ言葉聞いてもうなずいてしまう。

これは、思いや常識を超えた仏法に触れたからでしょう。そこが聞法会の妙味。味わった者だけがわかる喜びです。

春彼岸会

三月二十一日（火）春分の日
十時～十一時半

どうぞお参りください。
ユーチューブ限定公開で配信します。ご希望の方はメールで「お参りします」とお申し出ください。



「三折御本尊」の荘厳(しょうごん)は、ご本尊を中心に、その前には金香炉(きんこうろ)、さらに手前に土香炉(どこうろ)を備えます。ご本尊に向かって右側に鶴亀(つるかめ)の燭台、左側には花瓶(かひん)を置きます。

真宗門徒は、仏壇のことを「お内仏」と呼びならわしてきました。それはただ仏壇を備えてきたということではなく、「お内仏」と表現することで真宗独自の意味をいってきた生活のいとなみがあるのです。

一般的に仏壇が先祖壇といわれるのは、先祖の供養、先祖への感謝、あるいは家のなかに災いがないようにと祈願するために安置するものと受けとられているからではないでしょうか。これは、ある面では誰しもが願っていることなのでしょう。日ごろの生活が安定している時は先祖のおかげであり、何か事がおこると先祖の祟り(たた)ではないかと不安をおぼえます。私たちは常に「おかげ」と「祟り」の間でこころがゆれ動きます。すると先祖への感謝のこころは、一瞬にして不信にもかわります。つまり、本尊・阿弥陀如来を安置してもこころは開かれず、逆にこころを縛るものとしてはたらいっているということになります。それは、仏壇を私のお守りのように、あるいは葬式や法事の時でなければ必要のないもののように考えるとこころからきているのではないのでしょうか。

これに対し、私たちの先達(せんだつ)が単に仏壇としてではなく「お内仏」と呼んできたのは、実は、そこに「お内仏の荘厳」といわれてきた意味があったのです。

それはお内仏は浄土の世界をかたどったもので、本来、すがた・かたちを超えたものを目に見えるようにあらわされたものです。大事なことを忘れている私たちへの呼びかけのかたちとしていた(いた)できたのです。

親鸞聖人は『尊号実像銘文』で、「名号をとらなるはすなわち浄土を荘厳するに(そんごうしんぞうめいもん)なる」として(なり)（真宗聖典五二〇頁）と述べられています。

名号とは「南無阿弥陀仏」です。

近年の住宅事情や生活様式の変化など、さまざまな事情で、お内仏として仏壇を安置することがむずかしい場合があります。より多くのご家庭で本尊をお受けいただくことを願って、本山では小型の「三折本尊」を授与しています。

安置する場所としては、日々のお給仕やお参りがしやすい場所を選びましょう。家具や棚の上に安置されてもかまいません。

（『真宗の仏事―お内仏のある生活―』東本願寺出版より）

莊嚴されて生きる

真宗大谷派皆念寺住職

春近 敏 師

近頃、「終活」ということが話題となっています。残していく者に面倒をかけたくないという思いから自分の身の周りのものを整理し、場合によっては処分しておきたいという気持ちは、少なからず抱くものでしょう。私も、幼い頃の自分の写真などは残っているけど仕方がないだろうと考えて、古いアルバムを取り出したのですが、すぐに見入ってしまい、整理はそこで止まってしまいました。過去の思い出に浸るのは大変気分の良いものです。自身の歩みの事実を整理するのは大変困難なことです。これをどうするかは、今後の私自身の課題でもあります。

ところが、なかには「終活」の一環として、仏壇までも処分したいという相談を受けることがあります。これを聞いたとき、大学生のときに出会ったあるアメリカからの留学生のことを思い出しました。

彼は敬虔なキリスト教徒で、彼とは様々な議論をしました。宗教が話題となったときに、私はこう言いました。「あなた方は、毎週日曜日には教会に足を運んでいます。信

じる宗教を大事にしています。その点を、我々日本人は見習わなくてはいいけません。」すると、彼はこう答えました。「我々はせいぜい週に一度のことです。あなた方には、それぞれの家に教会があるではないですか。」

家に教会があるとはどういうことかといえば、彼は仏壇のことを言っていたのでした。仏壇は、元々は持仏堂という個人の敷地内に建てていたお堂を家屋の中に設置したものですから、彼の表現は確かにそのとおりです。帰宅して父にその話をすると、父は領いて「莊嚴とは、あるべきものがあるべき所にあつて、過不足のないことを言うのだ」と教えてくれました。本堂や仏壇を掃除して、お飾りをするを「お莊嚴する」と言います。莊嚴の「莊」はかざるという意味です。「嚴」とは厳し、つまりおごそかで整っていることを表します。父は、この厳しということを言ったのでしよう。

莊嚴とは、単に仏壇のお飾りだけを意味するのではなく、その前に座る私たち自身も含めてあるものです。お内仏（仏壇の仏さま）に相對して、お飾りに過不足がないかを確かめると同時に、自分自身の心や姿勢に過不足はないかと振り返る場です。お内仏に向き合うとき、あるべき物があるべき場所がないと途端に落ち着かなくなりま

す。同様に、自分が人としてあるべき姿でなくなっていると、そのことを仏さまに教えられるのです。正しいお莊嚴を心がけているときは、同時に自分自身も莊嚴されているのです。

今にして思えば、あの留学生は仏教徒である私に、わざわざ外に出向かずとも家中にいつでも手を合わせて自分を確かめる場所があるではないですか、それを大事にしてはいかがですか、と教えてくれたようにも受け止められます。自分の寿命が終わった後の問題も気になります。その前に、まずは自分のいのちをどう生きるかという問題があるのではないかと、莊嚴ということを通じて考えさせられました。

（『仏教ライフ146号』仏教情報センターより）

「お仏壇は、葬式出してから」とお考えの方が多いようですが、そうではありませんね。御本尊のある生活、掌を合わせ頭を下げる場所が家の中にある生活が日本の伝統でした。「お仏壇が無くて、子育てが出来るか。」という言葉も伝えられています。

お仏壇は、死者壇では無く、教育壇、親子が共に育つ共育壇です。

役員（責任役員・総代）

責任役員川名喜昭氏は、三月三十日に任期満了となります。五期十五年にわたり仏法興隆に尽力くださいました。

後任は、田村晋一氏が総代を辞し就任します。

なお川名喜昭氏は、田村氏の残任期間（一年間）、総代を勤めていただきます。

「総代理」の新設

現在、住職・副住職・坊守・責任役員・総代三人で役員会を開いています。

世代交代の必要性を踏まえ、若手の世話人に総代理となっていたいただき、役員会に参加していただくとうと、昨年の役員会や世話人総会で話し合いました。なお、総代理は、次の四地区から各一人を選定していく方針です。

【二部上中地区】

【二部下検儀谷平群地区】

【前地区を除く富山地区】

【鋸南地区】

九月の寺報で、お知らせする予定です。

桜の苗木を補植しました。



二月二十二日（水）八時三十分から二時間ほど、寺役員と有志で鐘突き堂南側斜面などの枯れてしまった桜の補植をしました。

右から、（敬称略）

田中昭一 田中嘉一 渡邊秀子

田村晋一 川名喜昭 足達崇

黒川敦子

自分たちのもう居ない将来に、今まで植えた八十本余りの桜が咲き誇り、それを愛でる人たちのことを想うと愉快であります。寒い中、お疲れさまでした。

二十数年ぶりに外壁塗装をしています。ほこりやカビで汚れがひどくモルタルにひび割れもありました。業者の調査では、木部への浸水は無いそうです。足場を組んだので、大雪や台風で破損変形した樋を全部替えることにしました。

第二墓地へのお参りは、庫裏と車庫の間の工事用通路をご利用ください。

春彼岸までに終える予定です。



庫裏外壁の塗装をしています。

行事予定

春彼岸会

YouTube

3月21日（火）10時～11時半

宗祖親鸞聖人御生誕850年立教開

宗800年慶讃法要団体参拝旅行

3月30日（木）～4月1日（土）

仏教を聞き語り合う会 ズーム

兼花まつり

ズーム

4月9日（日） 14時～16時

親鸞教室

ズーム

4月14日（金） 13時～16時

仏教を聞き語り合う会 ズーム

5月7日（日） 14時～16時

親鸞教室

ズーム

5月18日（木） 13時～16時

中佐久間講

5月19日（金） 14時～16時

勝善寺聞法会

ズーム

6月4日（日） 14時～16時

八日講十日講

6月8日（木） 9時～11時

奉仕作業

6月11日（日） 8時30分～

仏教を聞き語り合う会 ズーム

7月23日（日） 14時～16時